

進化経済学会

ニューズレター No. 43

Jan. 2018

進化経済学会事務局
〒171-8501
東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学経済学部
荒川章義
03-3985-2345
a-arakawa@rikkyo.ac.jp



撮影：磯谷明德

++++
オータムカンファレンス報告
理事会報告
会計関連報告
会員異動
++++

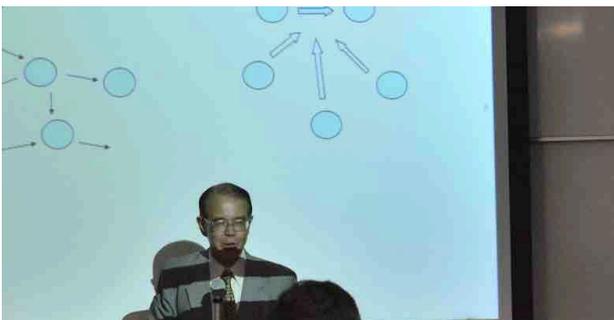
オータムコンファレンス報告

第22回九州大会実行委員長
磯谷明德（九州大学）

2017年9月23日（土）、九州大学経済学部棟の209教室において、第22回進化経済学会九州大会・オータムコンファレンスが開催されました。35名の皆様に参加いただきました。秋の行楽シーズンに入り、宿泊の手配がなかなか難しい9月の週末にもかかわらず、ご参加いただきました方々には厚く御礼を申し上げます。来年の3月末の本大会時は、ちょうど桜が咲き誇っている時期かと思えます。多くの皆様方の本大会へのご参加をお待ちいたしております。

さて、今年度のオータムコンファレンスでは、「学際シンポジウム：利己性・利他性をめぐって」というテーマを設定し、パネルディスカッションを行いました。今回のコンファレンスでは、このテーマをめぐり、取えて経済学分野とは分野の異なる3名の先生方（数理生物学、哲学、発達心理学）に報告を依頼して、ご教示をいただくという形式を採用しました。司会には、『「ココロ」の経済学』（ちくま新書）と『スマートグリッド・エコノミクス』（有斐閣）を上梓されたばかりの依田高典先生に担当していただきました。

第1報告は、九州大学理学研究院の巖佐庸先生による「協同行動の維持メカニズムに関する数理生物学」でした。「間接互惠」のモデルに基づき、人びとの間の協力が維持されるためには、社会的寄生者を特定し、彼らには協力をしないようにするには、どのようにしたらよいかをまず最初に問われ、その回答としての「評判」といった社会的情報の使用の仕方（「評判」（ラベル）の張り付け方）に関する研究成果とその考察を提示いただいた。また報告では、今回コメントータを引き受けていただいた松尾匡先生との共同研究の成果にも触れられ、対立し合う規範が存在する時の社会的な帰結についての興味深い考察と論考を示していただいた。



続く第2報告は、釧路公立大学経済学部の中村隆文先生による「進化と不合理性」でした。D・ヒュームが彼のコンヴェンション概念と正義論によって、原初状態から協調的關係を描き出すことは、一方でそれを合理的選択論の枠組みで解釈しうるが、他方で進化ゲーム論的にも解釈可能だとして、報告では後者に焦点をあてるとされました。その上で、ヒュームのテキスト解釈に沿う形で、行為主体の情動複合的なあり方に着目し、その「不合理」とも見えるあり方が、個人の変化、ひいては社会の変化の要因となると論じられました。



第3報告は、九州大学人間環境学研究院の橋彌和秀先生による『「利他性を可能にするところ」の発達の起源』でした。報告では、利他性や協力を可能にするヒトの心的特性が発達過程において、どのように出現するのか実験的に捉えることで、「ところの起源」にアプローチするという最新の研究成果の一部を教示いただいた。報告においては、3つの実験の事例を提示されました。「1歳児期における他者の注意・知識状態の理解に基づいた教示行動」では、知識共有への強い志向性が示唆されるとされ、また「因果応報的結末への期待の成立」では、「因果応報的期待」の発達を、幼児、学童、成人のそれぞれに分けて行動レベルを検討した実験結果についての考察が示されました。いずれも、人の社会を形づくるうえで重要な基盤となるような人間本性が、ヒトの社会的行動やところとどのように関わるとかを考えさせられる興味深い考察でした。



さて、3 報告に対して、司会者である依田先生自らがコメントを用意しておられ、コメントの口火を切っていただいた後に、本学会会員である八木紀一郎先生（阪南大学）、高哲男先生（九州産業大学）、松尾匡先生（立命館大学）の3名によって、それぞれの専門分野からのコメントが3 報告に対してなされました。このコメントに対するリプライが、報告者の3 先生からなされた後は、フロアとの質疑応答となりましたが、司会の依田先生から「思いの丈を存分に述べてください」という呼びかけがなされました。フロアからは次々と手が挙がり、様々な切り口からの意見が述べられ、大変な盛り上がりとなりました。今回のオータムコンファレンスは、何か特定の結論を求めるようなものではありませんでしたが、3 名の先生方の報告からは、進化経済学の今後を考える上での大きな刺激と有益な示唆を得ることができたのではないかと思います。

2018年3月29日（木）、30日（金）には「選好、制度、経済システムの進化」というテーマで年次大会を開催いたします。年次大会の準備が遅れてしまっており、学会員の皆さま方にはご迷惑をおかけしておりますが、年末にかけて、大会の準備を急ピッチで進めてまいります。またプログラムの詳細についても九州大会ウェブページ（<https://sites.google.com/view/jafee-kyushu-2017>）に掲載してまいります。多くの皆さま方に年次大会へのご参加をお願いいたしますとともに、ご協力のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。

第22回九州大会実行委員会

平方裕久

岩下伸朗

王 佳

磯谷明德

会計関係報告

2018年1月16日
会計担当理事・福留和彦

1. 平成28年度(2016年度)収支計算書決算報告(資料1)

1-1. 収入(会費、大会収入)

■正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移(4カ年)

2013(平25)年度	2014(平26)年度	2015(平27)年度	2016(平28)年度
4,205,000円	3,802,000円	3,622,000円	3,747,000円

■会費収入会員種別(件数。賛助会員と準会員を除く)

年度	正会員 当年度分	前受会費 (正会員)	学生会員 当年度分	正会員 過年度分	学生会員 過年度分	終身会員
2015	311件(※)	12件	32件	16件	5件	0件
2016	315件	5件	24件	25件	5件	2件
増減 (金額)	△4件 (+4.5万円)	▲7件 (-7.0万円)	▲8件 (-4.0万円)	△9件 (+9.0万円)	±0件 (±0.0万円)	△2件 (+10.0万円)

■第21回京都大会収入

91万7,000円(内訳: オータムコンファレンス17万6,000円、本大会74万1,000円)

1-2. 支出

■構成比(対当期支出合計: 2015年度6,063,190円、2016年度4,571,262円)

年度	英文誌刊 行費	大会費 (オ+本)	事務委託 費	部会補助 費	事務用品 費	経済学会連 合会費	謝金	送金手 数料	通信費	その他 (学会賞等)
2015	57.9%	28.2%	10.7%	1.2%	0.3%	0.6%	0.3%	0.2%	0.03%	0.5%
2016	47.3%	35.2%	13.2%	0.6%	1.1%	※0.0%	0.4%	0.2%	※0.0%	2.0%

※経済学会連合会費は2017年度予算から支出。通信費は請求漏れ

全体の95%超

■英文誌刊行費(シュプリングージャパン): 両年度とも経常費216万円(消費税込)

■事務委託費(国際文献社): 647,619円(2015年度) → 604,937円(2016年度)

〈参考〉業務管理料(12万円/年)+管理基本料(780円/人,年×会員数=333,060円)+消費税(44,660円/年)=497,720円(事務委託費総額の82%)

■第21回京都大会大会費

161万671円(内訳: オータムコンファレンス31万2,095円、本大会129万8,576円)

1-3. 京都大会(第21回大会)収支

■大会実行委員会の努力により、オータムコンファレンス・本大会とも下記の通りの結果となった

・オータム: 予算40万円+大会収入17万6,000円=57万6,000円					
支出31万円2,095円	差額26万3,905円		差額合計		
・本大会: 予算70万円+大会収入74万1,000円=144万1,000円					
京都大学経済学会助成金20万円			→60万6,329円		
支出129万円8,576円	差額34万2,424円		(学会口座へ返金済)		

第2回進化経済学会理事会議事録

日時：2017年9月23日（土）11:50~12:50

場所：九州大学経済学部6階大会議室

出席者：有賀裕二（会長）、西部忠（副会長）、磯谷明德（大会実行委員会委員長）、池田毅、依田高典、宇仁宏幸、江頭進、瀬尾崇、谷口和久、福留和彦（会計）、原田裕治、宮本光晴、八木紀一郎、吉田雅明、荒川章義（事務局）、岩下伸朗（大会実行委員会）

欠席（委任状あり）：青山秀明、浅田統一郎、植村博

恭、岡村東洋光、小川一仁、吉地望、澤邊紀生、塩

沢由典、徳丸宣穂、中原隆幸、服部茂幸、廣瀬弘毅、

藤本隆宏、吉田昌幸

欠席：佐々木啓明

1. 報告

1. 1 会勢報告

荒川事務局長より会勢報告があった。

1. 2 日本経済学会連合報告

池田担当理事より提出された資料を回覧した。

1. 3 各部会報告

特になし。

1. 4 清水耕一会員逝去について

長年理事を務められ、研究面運営面双方において学会に多大な貢献をされた清水耕一会員が7月に逝去されたため、学会弔意規定に基づき、学会としての弔電を送付したことが荒川事務局長より報告された。

2. 議題

2. 1 入退会について

3名の入会申し込み者ならびに会費滞納による退会者について提案があり、これを承認した。

2. 2 2016年度会計決算報告遅延について

2016年度の会計決算報告について、京都大学大会実行委員会よりいまだ会計決算報告が提出されていないため、監査済みの会計決算報告が今回提出できないことが福留担当理事より説明があり、これを承認した。

2. 3 2016年度会計決算報告（暫定）について

上記の理由により、2016年度の会計決算報告について、監査を受けていない暫定的な報告が福留担当理事より行われ、これを承認した。なお、正式な2016年度会計決算報告は、2017年3月に行われる九州大学大会における理事会で提出され、正式に承

認される予定であることを確認した。

2. 4 学会賞の選定について

2017年度の学会賞について、井上寛康会員の“Analyses of aggregate fluctuations of firm production network based on the self-organized criticality model”, EIER Published online: 10 August 2016,に授与したい旨が宇仁選考委員長より提案され、これを承認した。

2. 5 選挙管理委員会の設置について

今秋に行われる予定の理事選挙を担当する選挙管理委員会について、委員長に池田毅理事、委員に内藤敦之会員と村上弘毅会員を充てることが提案され、これを承認した。

2. 6 学会ホームページの委託について

現在「進化経済学会」でGoogle検索を実行すると、「このサイトは第三者によってハッキングされている可能性があります」という警告が出る件について、実際にハッキングされているわけではなく、特に実害はないものの、会員に誤解を招きやすいので、速やかにGoogleに連絡してこの警告が出ないようにする手続きを行うことが報告され、これを承認した。

2. 7 次年度開催校について

次年度の大会は名古屋工業大学において行われる旨が提案され、これを承認した。

3. その他

3. 1 WINIR(World Interdisciplinary Network for Institutional Research)からの依頼について

西部副会長より、WINIRより進化経済学会会員に次年度9/14~9/16に開催されるWINIRの大会にぜひ参加してほしいとの依頼があったとの報告があった。そのため、次年度のオースタムコンファレンスの日程は、可能であればWINIRの日程と重複しないようにしてほしいとの依頼があった。

【資料2】

